

浙江省 2015 年 10 月高等教育自学考试

日本文学选读试题

课程代码:00612

请考生按规定用笔将所有试题的答案写在答题纸上。

注意事项:

1. 答题前,考生务必将自己的考试课程名称、姓名、准考证号用黑色字迹的签字笔或钢笔填写在答题纸规定的位置上。

2. 用黑色字迹的签字笔或钢笔将答案写在答题纸上,不能答在试题卷上。

一、次の傍線部の漢字をひらがなで書きなさい。(10% 1×10)

1. われわれはこの素朴な基本的事実を無視してはならない。
2. 現実の道のある風景でなく、象徴の世界の道が描きたかった。
3. 文化とは、言ってみれば、余計のものの集積なのではないか。
4. そこには愛の軽薄さと、調子のよさしか感じられない。
5. 風はなかなか揚がらなかった。
6. 彼はひどく煩悶したあげく、名案が不意に浮かんだ。
7. 空襲の後には、いつも強い風が吹き荒れます。
8. 私は、途方にくれしていたのである。
9. 雨脚が細くなって、峰が明るんできた。
10. が、そういう曙の光も地上にはまだなかなか届きそうになかった。

二、次の傍線部の仮名を漢字で書きなさい。(10% 1×10)

11. 僕らの精神はりかいされることで、育ってゆきます。
12. れいせいに、大きい視野から、物事を見ているように思う。
13. 周期を超えて極めてびみょうな形をとって表れてくる。
14. それは一種の優しさでもあるが、あいまいさでもある。
15. ほかならぬその欠落によって、ぎやくに、可能なあらゆる手への夢を奏でるのである。
16. そして自分自身については深くぜつぼうしているのだった。
17. すあしのままひやりとした木の床を踏んで玄関に出る。
18. 私達は絶えずらくようのしている雑木林の中へはいって行った。
19. 彼の度胸にもあわないというじかくがあったのです。
20. だしぬけにしょうじを開けて一人の男がのっそり入って来た。

三、穴埋め (10% 1×10)

21. 「蛇口の下で水の柱が揺れていた」という文は『()』という文章から抜き出されたのである。この作者の名前は()である。1984年、『()』で谷崎純一郎賞受賞。

22. 『城の崎にて』の作者は（ ）である。彼の作品は私小説、（ ）と呼ばれるものが多い。

23. 『美しい別れ』の作者は（ ）である。大学在学中同人雑誌『東橋』に参加。昭和45年運命の力に翻弄される人間の力弱さを描いた『光と影』で（ ）を受賞し、55年には『（ ）』で吉川英治文学賞を受賞。

24. 『古今和歌集』は歌集で、略して『 』ともいう。延喜五年（905）の醍醐天皇の勅命によって、（ ）、紀友則、凡河内躬恒、壬生忠岑が選んだ。

四、次の文章を読んで、次の間に答えなさい。(24%)

文章 I

「美を求める心」という大きな課題に対して、私は、小さなことばかり、お話しているようですが、私は、美の問題は、美とは何かというようなめんどろな議論の問題ではなく、私たちめいめいの、小さな、はっきりした美しさの経験が根本だ、と考えているから、のではない。音楽は音の姿を耳に伝えます。文学の姿は、心が感じます。だから、姿とは、そういう意味合いの言葉で、ただ、普通に言う物の形とか、格好とかいうことではない。あの人は、姿のいい人だ、とか、様子のいい人だとか言いますが、それは、ただ、その人の姿勢が正しいとか、格好のいい体つきをしているとかいう意味ではないでしょう。その人の優しい心や、人柄も含めて、姿がいいと言うのでしょうか。絵や音楽や詩の姿とは、そういう意味の姿です。姿がそのまま、これを作り出した人の心を語っているのです。

そういう姿を感じる能力はだれにでも備わり、そういう姿を求める心はだれにでもあるのです。ただ、この能力が、私たちにとって、どんなに貴重な能力であるか、また、この能力は、養い育てようとしなければ衰弱してしまうことを、知っている人は、少ないのです。今日のように、知識や学問が普及し、尊重されるようになると、人々は、物を感じる能力のほうを、知らず知らずのうちに、おろそかにするようになるのです。物の性質を知ろうとするようになるのです。物の性質を知ろうとする知識や学問の道は、物の姿をいわば壊す生き方をするからです。例えば、ある花の性質を知るとは、どんな形の花弁が何枚あるか、雄しべ、雌しべはどんな構造をしているか、色素は何々か、というように、物を部分に分け、要素に分けていくやり方ですが、花の姿の美しさを感じるときには、私たちはいつも花全体を一目で感ずるのです。だから感ずることなど易しいことだと思ひ込んでしまうのです。

25、「美の問題は、美とは何かというようなめんどろな議論の問題ではなく」とあるが、ここから筆者の美に対するどの態度がうかがえるか、次の最も適当なものを選び、番号で答えなさい。(2点)

A 人間が直接に美を体験するには限界があり、概念的な説明を補うことがどうしても必要である。

B 美の対象はつかみどころのない抽象的なものであり、人間の知的働き掛けがあつて実体が把握される。

C 美は概念では説明し難いもので、あくまでも人間が主体的に感じる以外にはないものである。

D 人間が直接経験することで、美ははっきりとした言葉をあたえられ、万人に理解されるものである。

E 美の理解には人間の心の正しさが不可欠のものであるが、それ以上の知的作用がより強く要求される。

26、物の美しい姿を求める心の根本にはどのようなものが必要だと筆者は述べているか、最も適当なものを次から選び、番号で答えなさい。(2点)

A 人の心の優しさや性質を見抜く才能。

B 物の名前や性質を理解する能力。

C 知識や学問を尊重する心。

D 物を部分や要素に分ける方法。

E 物事をよく感じる優しい感情。

27、「物の性質を知ろうとする知識や学問の道」の特色として最も適当なものを次から選び、番号で答えなさい。(2点)

A蓄積 B直観 C置換 D分析 E感動

28、上の文章の特徴として最も適当のものを次から選び、番号で答えなさい。(2点)

A 美の知識にいかにかに到達したかを、筆者の直接経験と他の豊富な事例を引いて説明し自己に美に対する熱情、を平易な口調で説明している。

B 美の持つ根本の力と性質を分かりやすい比喩をまじえて解説し、美を認識する方法を説きながら、同時に、人間が人間であることの意味も問っている。

C 美に関する一般的な概念規定をふまえつつ、自らの美的体験に触れ、美が自己の感性を磨く上でいかに多きな役割を果たしたかを紹介している。

D 人間にとって、美的な体験がいかに貴重なものであるかを主張し、美を自分の生活の中に正しく位置付けることの意味を述べている。

E 人間の成長にとって、美が不可欠な養分であるということの意味を検討し、美が日常生活のありふれた何気ない経験から感得されるものであることを論証している。

文章Ⅱ

相手もまわりの人、誰も傷つけない愛などという(①)はない。それは、傷つけていないと思うだけで、どこかの部分で、他人を傷つけている。

愛というのは②所詮、利己的なものである。

(③) 傷つけていい、という理屈はもちろん成り立たない。他人を傷つけるのは、できる限り少なくしななければならない。

だが、そのことと、だから相手のために譲ってもよいという理屈にはならない。

「君の幸せのために、僕は身を退く」という言葉は、一見耳ざわりがいい。

冷静に、大きい視野から、物事を見ているように思う。

29、(①)に入る最も適当な言葉はどれか。(2点)

A こと B の C もの D はず

30、②「所詮」という言葉と最も意味が近いのはどれか。(2点)

A 結局 B いうまでもなく C もともと D まったく

31、(③)に入る最も適当な言葉はどれか。(2点)

- A それなのに B それに C ところで D だから

文章Ⅲ

月日は百代の過客にして行きかふ年もまた旅人(1)。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口をとらへて老いを迎ふる者は日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、去年の秋、江上の破屋にくもの巢を払ひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に白河の関越えんと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、道祖神の招きにあひて取るもの手につかず、ももひきの破れをつづり、笠の緒をつけ替へて、三里に灸すうるより、松島の月先心にかかりて、住る方は人に譲り、杉風が別荘に移るに、
草の戸も住替わる代ぞひなの家

面八句を庵の柱に懸置。

32、(1)に入る最も適当な言葉はどれか。(2点)

- A なった B なり C なる D なりけり

33、この作品は次の文学ジャンルのどれに属するか。(2点)

- A 紀行文 B 和歌 C 伝記物語 D 随筆

34、次の語の本文中での読みを、現代仮名遣いで答えなさい(1×4=4点)

- ①百代の過客 ②栖 ③去年 ④笠

35、「草の戸も住替る代ぞひなの家」の句の解釈として、あてはまるものを以下から選びなさい。(2点)

- A 芭蕉はわびしい草庵から雛を飾る住まいに引っ越すことになった。
B 芭蕉が草庵から引っ越すときに雛を飾っておいた。
C 芭蕉には雛を飾るような子供がいなかったが、芭蕉の後に草庵に住む人に子供がいる。
D わびしい草庵も、住む人がかわることで本来の雛の家の役割を果たせると喜んでいる。

五、次の内容を簡単に解釈しなさい。(20% 5×4)

36、万葉集

37、平家物語

38、川端康成

39、志賀直哉

六、論述(26% 13×2)

40、「枕草子」について簡単に説明しなさい。そしてその名句の「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく、山ぎは少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。」を口語に訳しなさい。

41、芥川龍之介の代表作品「羅生門」のあらすじを書いてください。